

「第8回フォーラム」 in JMER

平成30年8月11日に、新宿ミッドウエストビル1階アビリティーズ・ケアネット(株)本社ショールームにて、「第8回フォーラム in JMER」を開催しました。本年度は、「共生社会の実現のために今、何ができるか? II ～地域の共生社会をデザインする多職種連携について～」をテーマに、パネルディスカッションを行いました。

パネルディスカッション1(前半部)では、葛飾区立梅田小学校長の阿部謙策氏、国立障害者リハビリテーションセンター研究所の北村弥生氏、アビリティーズ・ケアネット株式会社みまもりサービス事業所の西井和也氏の3名の先生をお迎えしました。また、指定討論者は葛飾区障害福祉課自立支援係長の星茂之氏、総評者は文部科学省初等中等教育局特別支援教育課特別支援教育調査官の田中裕一氏にお願いしました。

まず、阿部謙策氏からは、「梅田小学校における特別支援教育の実践」をテーマに話されました。

はじめに、共生社会の実現に向けて、人権教育、道徳教育、特別支援教育など、様々な教育課題があることがあげられました。それから梅田小学校の紹介および実践事例、特別支援教育(校内通級指導)と巡回指導員による指導について話されました。実践事例として、通常の学級での実践として、①実態の把握(アセスメント)と支援方法の共通理解、②個別の教育支援計画と個別指導計画の作成、③環境の整備(基礎的環境整備)、④授業の改善(ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくり)について話されました。特別支援学級(固定)の交流及び共同学習の実践として、具体的な場面や各学年の例をあげ、大事にしたいことについて話されました。

最後に、共生社会の実現に向けて、①管理職自らが、経営の柱に特別支援教育を据え、リーダーシップを発揮して推進する、②ニーズに応えられるように、専門性を高める、③すべての教員が特別支援教育の視点に立った指導を定着する、④心のバリアフリーを推進する、⑤学校だけで抱えず、様々な資源を活用することをあげられました。



次に、北村弥生氏には、「災害準備を切り口にした地域における連携」をテーマにお話しいただきました。

災害時の障害者支援は非定型サービスであり、防災も福祉の活動の不明瞭さ、災害準備の必要性、個人支援計画の中に災害時個人避難計画作成、在宅時の地域の協力の必要性、卒業後の対応の自己調整の必要性などの点を挙げられました。所沢市との平成25年度から平成30年度までの取組として、防災研究会および所沢市地域防災訓練参与観察開始(H25)、町会会員に車いすのもちあげおよび市役所がスロープ購入(H26)、国リハ学院学生と事前の介助研修及び当日介助の実施(H27)、当事者の新所沢イーストネット安心安全部長就任と中学生の協力(H28)、事前交流会(町内会、民生委員)の実施(H29)、盲導犬利用の追加参加、事前交流会での個人避難計画作成グループワークや地域支援者の紹介(H30)など、年次ごとの所沢市の活動例をお話しされました。

最後に、業務内での位置付け、枠組みのことや、できることからやっていくことをあげられました。



最後に、西井和也氏からは、「奈良北団地における地域共生のための多職種連携について」をテーマにお話しいただきました。

奈良北総合ケアサービスについて、UR 奈良北団地の管理開始、住宅戸数、所在交通、建物構造について説明がありました。そして、居住しているかたの半数が65歳以上であり、見守り等のケアの必要性の部分から、高齢者向けみまもり住宅について奈良北団地についての説明に入っていました。①みまもりサービス事業所、②居住介護支援事業所アビリティーズ・奈良北、③福祉用具 奈良北・町田営業所、④デイセンターつどい奈良北、⑤移動サービス・奈良北についてそれぞれ話されました。実際に本サービスを開始してから、5年間で緊急要請は4件であったこともあげられました。



指定討論者の星茂之氏からは、共生社会に向けて具体的にどのようなことを取り組んでいくかを考えるにあたって、まず、東京都が作成した「心のバリアフリー」を用いながら話されました。

その後、パネルディスカッション2(後半部)では、多職種連携を進めるにあたり、キーパーソンとなる人や組織などについて議論をおこないました。

パネリストのお三方からそれぞれの立場でお話しいただきました。教育では在学期間後の連携や成人以降を見通した教育、管理職の理解やコミュニティ・スクールや学校評議委員会があげられました。研究からはそれぞれの機関等の調整としての活用、事業所からは地域包括ケアに関する会議(包括ケア実現に向けた)に参加し、話題提起をすることがあげられました。また視点として、高齢や障害にかぎったことでなく、本人の居場所づくりも大切になることがあげられました。また、地域で生活し、主張していくためには、自己発信や要求ができたり、合理的配慮を自己申請できる子どもを育てるための教育体制や周囲からも助け合えるように、そういった子どもを育成することが大切ではないかという話があがりました。

最後に田中裕一氏から総評をいただき、障害のない方の理解だけでなく障害のある方からの理解を含めた相互理解の大切さ、障害のある方と個人・事業所・団体などが半歩ずつ歩み寄る心、地域を巻き込んだ活動、障害(者)に関する理解啓発、当事者の意思表示と自己決定など、いままでのパネルディスカッションであげられた話を整理していただきました。また、在学中における教育機関以外との組織などとの関係について、お互いを尊重し、信頼し、協力できることが大切であり、卒業後の社会での生活等に向けた活動などが大切ではないかとのお話で締めくくられました。



左から西井氏、北村氏、阿部氏



全体写真



左から田中氏、星氏